

暑い日の募金活動

グローバルフェスタにボランティアとして参加して

中学1年 北爪 椋祐

僕は、ボランティア当日友達と待ち合せてグローバルフェスタの会場へと向かった。フェスタ会場につくと、そこで待ち伏せていたのは、「暑さ」という名の敵だった。「暑さ」が見ている中、僕たちは「カンボジアの子供たちに教科書を」と書かれたグループ専用のTシャツを着た。

Tシャツは厚くて着ると暑さで干からびるのではないかと不安になった、がいざ着てみると暑さよりも、やる気がみなぎってきた。

僕たち14人は暑さの中、行動し始めた。が、シフトがまだだったので、暇になってしまった。僕は友達を連れて会場を回った。会場には僕ら以外にもカンボジアの子供を支援しているところがあって、カンボジアがどれほど深刻な状況になっているのか実感した。



シフトの順番が回ってくると、僕は募金箱を首にかけ、カンボジアの状況などが書いている紙を配り、たくさんの人にカンボジアの支援、募金を求め声をかけた。中には無視して通り過ぎてしまう人たちもいた。紙を受けとってもらえなかった悲しみよりも、カンボジアのことを何もわからないで、通り過ぎていく人間に失望した。中には、関心を持って詳しく聞いてくれる人や、カンボジアの状況を理解した上で募金してくれる方々もいた。

シフトを代わる時間になったので、募金箱を首から外そうとしたらひもが濡れていることに気が付いた。汗だ。暑さのせいではなく、僕らが頑張ったから出た汗だ。が、やはり人間暑さに勝てず僕は熱中症になりかけてしまった。みなさん優しく水をかけてくださり、楽になった。

ドーナツをおやつにとスタッフの大澤さんが買ってきてくれた。「仕事の後の食べ物は最高」と思いながら、ドーナツを口にほおばった。ソルティライチを口に含み、また、会場を回ることにした。いろいろな国からの食べ物が集まっていて面白かった。中でも、アジアの焼き鳥が注目を浴びていた。

一日が終わってかたづけを始めた。あたりはすっかり暗くなって、寒く体が冷えた。無事募金も順調に進み一歩進めた気がした。